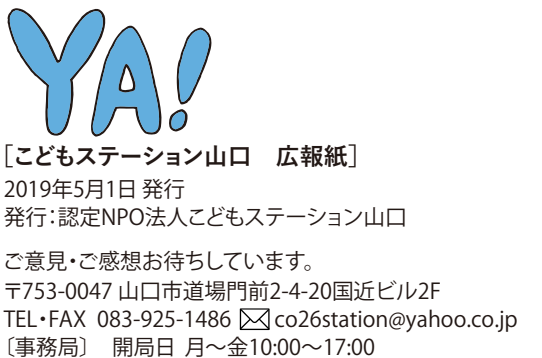
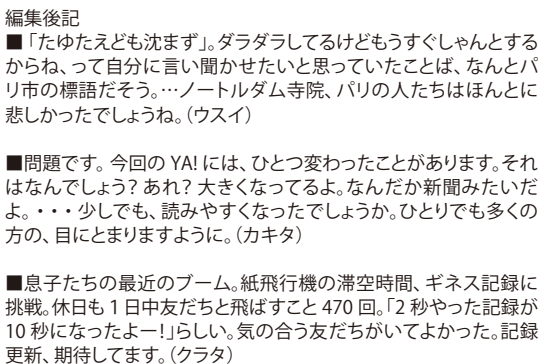
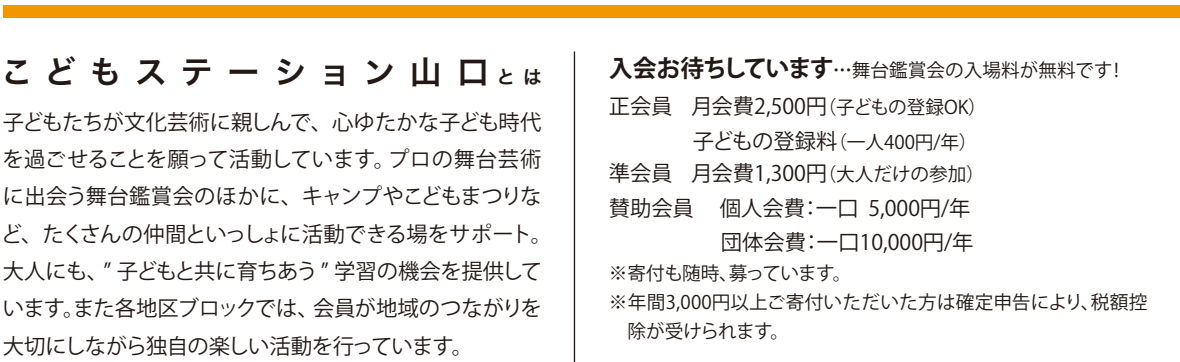
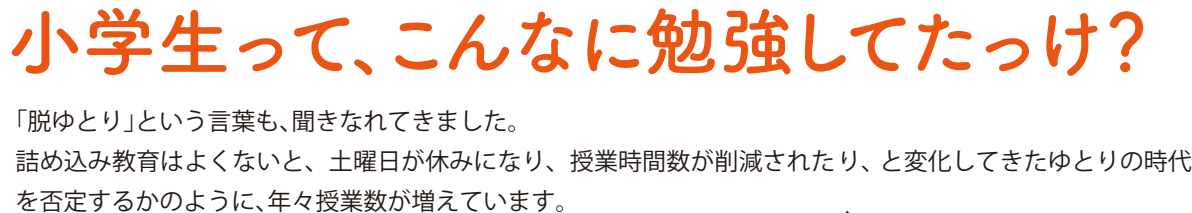
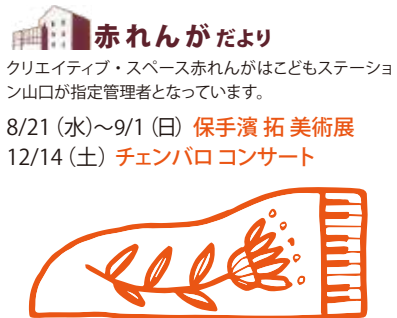
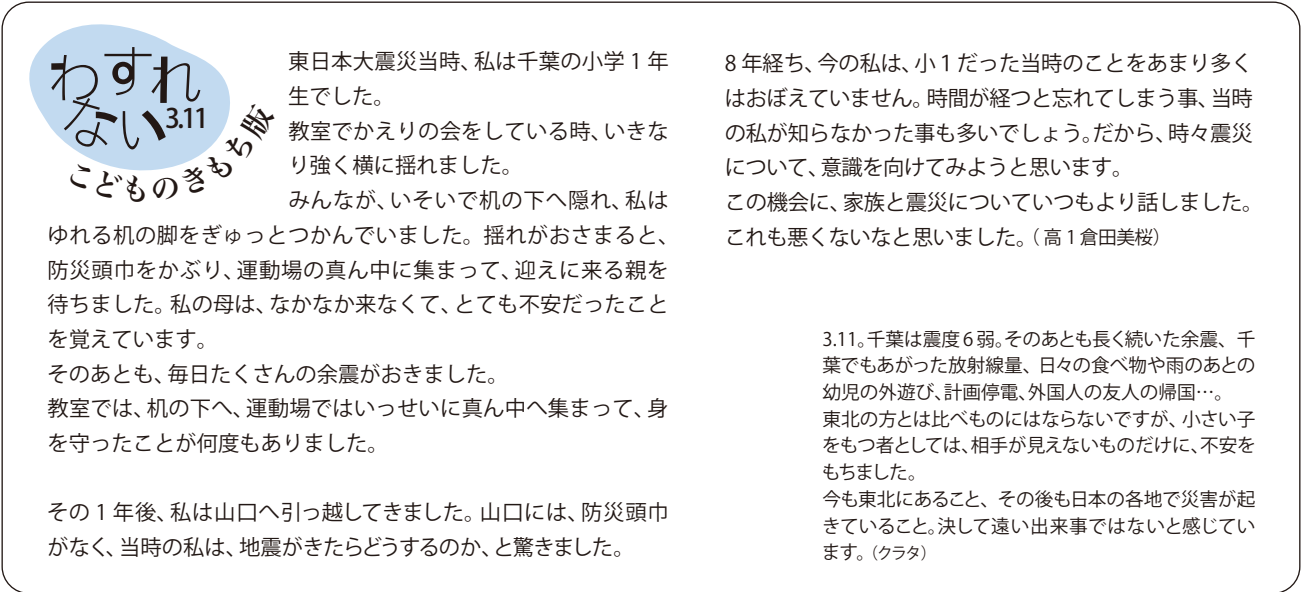
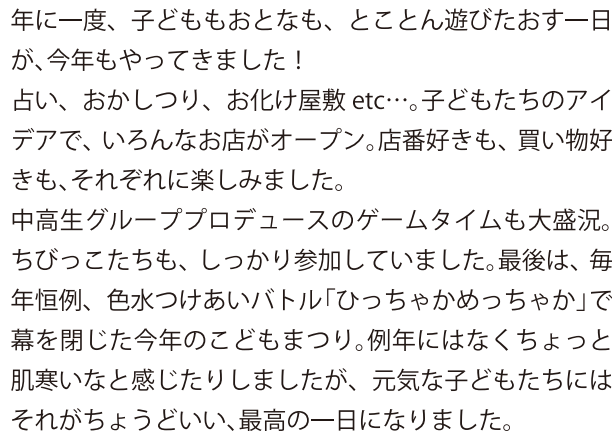




いっぱい遊んでいますか？

小さい子どもって、遊具がなくても少し広いところがあると、思わず走りだしたりしませんか？ そんなとき、おとなの声はなかなか届きません。なにがおもしろいのか、おとなにはあのころの気持ちは思い出せないものです。でも、子どもにとってその時走ることは、すっかり遊びです。「子どもは遊ぶ存在」なのだと、確信する場面です。



「めざせ、遊びの達人 森へGO!」

【遊びの3間（さんま）】

時代の移り変わりの中で子どもはどんどん遊ばなくなってきています。遊べなくなっているといったほうがいいかもしれません。「時間」「空間」「仲間」。子どもの「遊び」に必要な「3つの「間」」がなくなってきたと言われはじめてどれくらい時代が経ったのでしょうか。今やその「3間」は限りなくゼロに近づいています。

時間

習いごとや塾で子どもたちの毎日は多忙。そのうえ宿題も少なくない。

空間

かつては家の前の道路でもけっこう遊べたり、入っても叱られない空き地があったけれど…。

仲間

近所の友だち、学校の友だち…前もって約束しなくても遊べる、そんな友だちが少なくなった。



以前、このYA!で、子どもたちに遊びについてのアンケートに答えてもらった時、半数近くの子どもたちが遊びは「家の中で」と答え、遊びのトップは電子ゲームでした。それは「遊びの3間」が少なくなったことが大きく影響しているのではないかと思います。

【自由に遊べる場所】

しかし、これを時代のせいとあきらめず、屋外で子どもたちが思いきり遊べるような場を願い、広がってきたのが今、全国に400カ所ほどあるプレーパーク。プレーパークは子どもたちが自分の責任で自発的に自由に遊べる場所です。ここには遊具らしいものはなく、土や水や火などを使って遊んだり、木に登る、高いところから飛び降りる、といったふつうの公園では禁止されているようなことも可能です。（プレーパークには子どもたちの遊びを見守るプレーリーダーという大人がついています。）

おとなりの宇部市では今、プレーパーク設置の計画があり、昨秋、そのイベントとして「1日プレーパーク」が琴芝町の神原公園で行われたので見学に行ってきました。そこでいちばんに目に付いたのはどろんこまみれの女の子。

子どもはどろんこ遊びが好きとは知っていても、あそびまで夢中になれる子どもと、それを見守れるおとなはすてきな、と感心しました。土を掘り返し、水を流し込み、どろどろにして遊ぶ＝ふだんの暮らしの中ではまず不可能な遊びがゆったりと繰り広げられていました。



プレーパークせたがや



シャクトリムシみつけた

「きたない、気持ち悪い、あとが大変!…とおとなは思うけれど、子どもたちは本能的にどろんこがだいすき。水や砂や土に触れて気持ちを開放し、思い切り遊ぶことで子どもたちは満足感を得ます。」と、ある保育園の園長先生は言います。



吉敷ブロックのデイクャンプ

【遊びは子どものしあわせ】

自発的な遊びの中で子どもが学ぶものは多いですが、何よりだいじなのは「遊び」が子どもたちのいちばんの「しあわせのもと」であるということ。そういえば子どもが遊びに夢中になっている時、おいしいお菓子や好きなテレビ番組で誘っても遊びをあきらめさせられなかったこと、親なら経験がありますね。

遊び場・友だち・時間のゆとり・・・子どもの遊びをゆたかにするために、社会の、おとなの、責任は大きいのではないのでしょうか。（ウスイ）

Report 「遊び」をかんがえた3つの事業

「まんでみよう
実はみじかな 子どもの権利条約」
学習会＝ナルホド篇 11月2日(金)
赤い羽根共同募金 H30年度赤い羽根共同募金県城助成事業

「子どもと文化のNPO Art.31」代表の古屋寿朗さんをお迎えした、2年前に続く学習会。「子どもにとって休息、余暇は必要で、遊ぶことを大切にされ、文化的な生活や芸術に自由に参加できる権利を持っている」と謳った31条。しかし国連は「日本の子どもたちは過度に競争的な教育制度のストレスからさまざまな苦しさを抱えている」と条約をないがしろにしている日本に勧告をしています。見回せば、不登校、いじめなどなど、なかなかなくならない現実に対して、一見緩やかに聞こえるこの権利こそが現在の日本の子どもたちには必要なのです。子どもは今の幸せのために自分自身の時間を生きることがだいじで、子どもは31条が保障される中でこそ、自ら学んで育っていくのだと話されました。翌日の自然体験はまさにその考えに基づいた、子どもの中の主体性が育つ事業でした。

宿泊自然体験
「めざせ、遊びの達人 森へGO!」
11月3日(土)～4日(日)
赤い羽根共同募金 H30年度赤い羽根共同募金県城助成事業

山口市徳地「森林セラピー基地」と山口維新公園で行われたのは小学6年生～高校生まで20人の子どもたちが「遊びを極める」ことに焦点を絞った活動でした。1日目には森の案内人(さまざまな遊びのプロフェッショナル)に20以上の集団で遊べる遊びの手ほどきを受け、古屋寿朗さんから「子どもの権利条約31条」についてのミニレクチャーを受けました。2日目にはグループで遊びを考え、プレゼンをするというプログラム。伝えることの難しさを感じながら、子どもたちはさまざまに工夫を凝らしていました。遊びの楽しさ、遊びの中で人とつながることの心地よさを味わい、自分たちにとって「遊びはたいせつ!」を再認識した活動でした。（→表紙写真参照）

「子どもの生きる力を遊育で」
講演会 1月12日(土)
H30年度やまぐち子ども・子育て応援ファンド助成事業

こんなにたいせつな「遊び」をもっとつきつめて大人に問いかけたのがこの講演会でした。講師は日本のプレーパーク(冒険遊び場)の草分け的存在、天野秀昭さん。「子どもは屋外で遊ぶ中で五感を刺激されさまざまな脳力を高める」、と今まで考えてもみなかった遊びの効能。そして意欲的に遊ぶ中で子どもは育つのだということ(遊育)。教育はおとなが教えることにに対して、遊育は集中したり、挑戦したり、自分自身を制御したりということを、子ども自らが遊びの中で学んでいきます。基本的に子どもは保護される存在ではなく、遊び、育つ主体。その「遊育」という考えがプレーパークの根幹になっていることがよく理解でき、今こそ子どもたちには、プレーパークのような場所が必要だと痛感しました。

(レポート ウスイ)

こどもステージ る・り・フリー 3月10日(日) 山口県立図書館レクチャールーム

子どもたちが舞台にたち、作品を発表する「る・り・フリー」。本番に向けて、地域ごとに集まったグループで、脚本から小道具づくりまで、自分たちの手で準備していきます。おとなは、あくまでサポート役。なるべく手を出さず、どこまで見守れるか…。おとなにとっては、試される日々なんです。



おはなしより、やりたい役から先に決まった。

冬休みあたりから、それぞれのグループ(今年は7つ)が動き始めます。脚本はどうする? だれが出る? 学校や習い事でいそがしい子どもたち。集まれる時間にも限られます。せっかく集まっているのに、遊んでばかりでなかなか本題に入らない様子に、つい、口を出したくなるけれど。いや、ここは我慢のしどころ、と言い聞かせながら。今年は、本番までの練習で出演者全員がそろわないまま、当日を迎えるグループがほとんど。けれど、本番の舞台ではそれはもう堂々と、ときにゆる～く、それぞれに楽しいステージをみせてくれました。最近では、学校でも演じる経験は少なくなりました。経験が少なくとも、鑑賞体験は多い子どもたちです。どんどん出



カツラ、先輩からずっと引き継がれてるんです。

みんな、芸達者!

てくる「これがやりたい!」を形にして臨むステージは、とても自由。表現したい気持ちは、どの子のなかにもあるのだからと感じさせられます。そして、目指すは「る・り・フリー大賞」。人気投票1位の称号です(大賞がとれず、本気で悔しがる子、多数!)。毎年関わっていると、1年たつごとに、おとなのサポートを少しずつ必要としなくなっていくことに気づかされます。成長ってこういうことね、と感慨に浸るのも醍醐味かも。(カキタ)

2018 10月
2019 3月

こんな舞台をみてきたよ

こどもステーション山口の舞台鑑賞会には、人形劇や舞台劇などいろんなジャンルがあります。



ともだちげきじょう (乳幼児対象)
人形劇団のはな 参加 142名
10月14日(日) 山口市市民会館小ホール

なかよししたのしい5つの人形劇は、どれもちいさな人たちをとりこに。

- うーやんのにぎやかうどんがおもしろかった!(子ども)
- 人形の顔は変わっていないのに、くるくる表情が変わるように見えました。(会員おとな)

スギテツ音楽会 きがるにブラボー!
(低・高学年対象) 参加 354名
プラスギス
10月26日(金) 山口県教育会館ホール

クラシックで笑顔を創る、の言葉どおり、会場が笑顔でいっぱいになったコンサート。

- 音楽がとても今以上に好きになりました。(会員13才女子)
- トムとジェリーが楽しかった。パトカーやきゅうきゅうしゃの音がすごかった。ブラボー。(会員5才男子)
- どの曲もアレンジがたのしく、ひきこまれてしまいました。子どもたちにもクラシックや、楽器が身近なものになったと思います。(会員30代女性)



ワークショップ「ブラボー」on ステージ!
9月24日(祝)
公演のフィナーレを飾る一曲を、スギテツと演奏した15名が集まり、練習をしました。子どもからおとなまで、それぞれが得意な楽器を演奏するステージ。持ち寄った楽器もさまざまでした!



Yen Town Fools
ピクチャーブック (低・高学年対象)
蒼い企画 参加 361名
12月15日(土) 山口県教育会館ホール

びりとブッチー、ふたりのクラウンが繰り出す、絵本のような不思議な世界。

- 声をあまりださなくても、おもしろさ(イイこと)がつたわってよかったです。(会員12才女子)
- あたたかくて、少し切なくて?とても不思議ですてきな時間でした。(一般おとな)
- すごかった。(会員7才男子)

キッドナップ・ツアー
劇団うりんこ (高学年対象)
H30年度 赤い羽根共同募金県城助成事業 参加 156名
2月16日(土) カリエンテ山口

親子、それぞれの立場で、それぞれの思いで、考えながらみることでできた作品。

- いろんな風景が見えました。いろんな感情を味わいました。(会員40代女性)
- すごくおもしろかった。ハルの心の変化がよかった。(会員14才女子)

workshop

コミュニケーションワークショップ
「ココロの家出、してみない?」 12月21日(金)

キッドナップ・ツアーヒロインの丹羽美貴さんを講師に、小学5年生以上の16名が体験したワークショップ。父親、母親、兄弟など、いろんな役になって、こんなときどうするかを考えて、演じてみました。心の壁をとっばらって、みんな笑いつつなし。



でべそ版ずっこけ狂言
でんでんむしむし48
(低学年対象) 2ステージ 参加のべ326名
民族芸能アンサンブル若駒
3月16日(土) 山口市市民会館小ホール

- 「でんでんむしむしでんでんむしむし」がおもしろかった。(会員9才男子)
- コミカルで分かりやすくしてあるけれど、ちゃんと狂言を感じる事ができました。(一般40代女性)